広報富士川

11月号

編集　富士川町役場内庶務課広報係
静岡県庵原郡富士川町
発行人　助役　中川国兵
電話　岩渕3・120・127
印刷所　望月印刷所　電話　岩渕304

来春、知事選、町議選

改正選挙法で実施

来年一月は知事選、四月は町議選と、近く私たちに直接な影響を与える選挙が行われるが、地方選挙としては改正された選挙法で実施される初の選挙である点注目される。

政党は選挙運動ができる

「選挙は政策本位」という線が明確にされた。

選挙が候補者と選挙人の個人的なつながりで行われるようでは、義理人情、買収から手が切れない。

政策、政見を充分知ることのできるように公の施設を整えたり、葉書、ポスターを増して運動の巾を広げ政党なども選挙運動ができるようになつた。

公務員の地位利用に厳罰

公務員の運動は今までも公務員法で禁止されていたが、こんどは一般職、特別職を問わず、その地位を利用しての運動はできなくなつた。違反すると厳罰をうけるばかりでなく、それによつて当選しても無効となり、また連座の対象となる。

選挙、被選挙権の停止を徹底化

違反者には厳罰、選挙権被選挙権の停止も徹底的に実施する。

不正な当選は無効

立候補者の違反はもちろん、運動総括主宰者や出納責任者が違反した場合の他運動の地域主宰者、運動費用の二分の一以上を出した人、候補者と同居の家族が違反した場合も加えられ、当選しても無効となる。

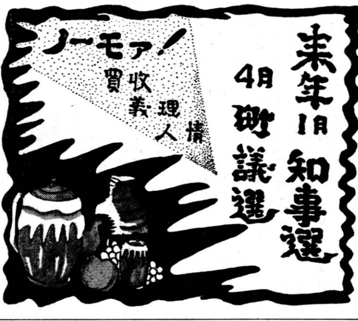
県内移転者の選挙権

移転前の市町村に三カ月以上住んでいた選挙人は移転後の市町村に三カ月以上住まなくても県の選挙をすることができるように改正された。

※ただし市町村の選挙の場合は移転後三カ月以上住んでいないと選挙する資格はない。

寄付の制限

候補者を支持する後援団体は一定期間、選挙区内の人に寄付や物品供応できなくなり、さらに候補者がその団体に寄付することも一定期間禁止されるなど寄付制限のわくが広がつた。（詳細は役場、電3番へ）



老人クラブ連合会

会長は若月幾太郎氏

他市町村でも、老人クラブの充実化には各層の熱意を集中しているが、わが町でも老人の明るい生活を目標に着々その準備を進めている。

十一月十一日日曜日、第一公民館に各老人クラブの会員約七百名を集めて、富士川町老人クラブ連合会が開かれた。

会員たちは昼食を共にしながら、文化祭で第一位を占めた青年団の「次郎かかし」、婦人会の舞踊、その他の舞台を楽しんだ。

なお連合会の会長は若月幾太郎氏である。

潮

ヒューマニズム

堺町　芦川

十一月一日、第一小学校五年生の遠足とて、私の娘も喜々として家を出た。

午前八時半、小学校を出発した一行は先生に引率され、野田山裏の大平山頂上に十時半頃到着したのだが私の子、須美子は着くと同時に急性心迫症という病気になり、呼吸困難となつた。

私がこの欄をお借りしたのはこのような個人的な始末記にわたるものでなく、結果的には九死に一生を得た一人の子供に対する周囲の、いうにいわれぬ暖かい人間性について、広く知つていただきたいからだ。

担当の先生の適切な連絡により、医師金指先生の同行をお願いでき、同先生は「医は仁術」の言葉をそのまま身をもつて実証、積極的に人命救助に乗り出し、担架を運ぶ先生方とともに大平山までの山道深く、行きまた帰つてくれた。薄暗くなつてからの下山途中、たまたま木材を搬出中であつた佐野実さん、若月長作さん方も御自分たちの仕事を捨てて担架の運搬に協力してくれた。

私は父親としてばかりでなく人間として、この周囲の方々の愛情の手をどんなに嬉しく思つたか。今こうしてこれを記していても感動の涙を禁じ得ない。

事件としてはさりげないこの事実の中に、本人には勿論、他の生徒皆さんにとつても尽きぬ教訓が含まれているのではないかと思う。

農協、選果場完成

取扱量以前の三倍二三〇トン

農業協同組合では、このほど総工費二千百万円を投じて選果場を新設、増加する需用に答える。

国道一号線の駐車禁止に伴い、以前の選果場では集荷、出荷に困難を生じたことが動機になり、作業の機動化という長年の懸案をこの際一挙に解決しようとして鉄骨スレート葺六百六坪の建設を実現した。

選果場はすべてが一貫した流れ作業を目指して機械化され、したがつて蜜柑七五トンの取扱量を二三〇トンと、実に三倍の取扱量に高めながらも作業員数は少なくてすみ、労賃を大きく浮かびあがらせることができると予想される。

全体の四分の一程度は缶詰製造所として回転する他蜜柑シーズンオフには箱を作る作業場として、空箱置場として、あるいは製茶場として、びわの選果場としてなど多用な使途にあてられる。

望月氏の受賞記念に

町主催祝賀会

望月隆策氏の藍綬褒章受賞を記念する祝賀会が町主催により、十一月二十二日の佳き日を選び、午後二時第二中学校図書室において開催された。

そこ冷えのする小雨まじりの天候にもかかわらず参会者は百名の多きに達し、同氏の長年の自治功労に対して感謝の意を表した。

町では望月隆策氏の功績をパンフレットに刊行し参会者に配付、なお同氏に記念品（花びん）を贈呈してその功労をたたえた。

写真は褒章を胸につけた望月さんと、藍綬褒章。藍色の綬がついている

第一小、校庭整備

父兄も勤労奉仕

かねてより第一小学校の整地について問題が投げられていたが、過日の町協議会で承認されたのを機に町より十七万の予算を仰ぎ、そのあとの経費はいつさい父兄の勤労奉仕でまかなうということで十一月五日よりその整地作業に入り、毎日平均約三十名、延べ約六百人の父兄により、二十四日完成。

周囲の庭はその努力の結果を物語り、立派に整地された上に花だんが秩序正しく並び、築山、モデル稲田、蓮池、藻池、アヒル小屋、鶏小屋、鳩小屋、兎小屋などができあがっており、生徒たちの情操教育を高めようというもくろみもずばりその的を射た感があつた。

四氏、納税表賞を受く

十一月十五日、清水銀行本店において、納税表賞が行われ、わが町では次の四氏が表賞を受けた。

◎清水税務所長賞
法人申告指導功労者
富士川製紙社長　井上俊夫氏
優良納税者
本通四　渡井敬蔵氏
◎推進協議会会長表賞
納税功労者
舟山町　望月一郎氏
優良納税者
本通三　池上　憲氏

体協柔道剣道大会挙行

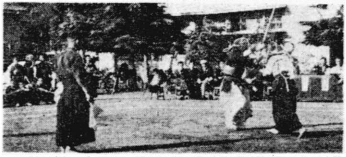
体協柔道部主催の柔道大会は十一月四日第一公民館で約六十人の参加人員のもと挙行、事業所では日本ゼオンが一位を、中学の部では富士中学校が一位を獲得一般の紅白試合も催された

続いて十一月十一日には体協剣道部主催の剣道大会が第一中学校校庭で開かれ約七十名の参加人員のもと技が競われ、一位は富士川第一中学校、二位は富士中学校、三位は蒲原中学校と決まつた。

大石君（本通）

中学生で剣道初段

本通一の大石友己君（第一中学三年）は以前から体協剣道部長尾崎五段の指導を受けて剣道の心技を磨いてきたが、九月三十日、沼津において段位決定の選に見事合格、初段位を獲得した。当町立中学校の生徒としては初の有段者である。



写真は第一中、校庭で開催された剣道大会

お知らせ欄

◉岩渕電報電話局より――電話希望の方に。

自動電話局舎建設の設計に近く取りかかることになつた。加入電話架設希望の方はなるべく早く申込まれるよう。

申込は印鑑持参の上、窓口へ。

◉商工会より――年末資金の申込は早目に。

中小企業者に対する県保証協会の保証融資は申込締切が12月10日となつているが本年度の保証額六億円に満額となると10日以前でも打切りとなるから希望者は早目に申込むよう。

申込用紙は商工会にある　なお詳細は電四二二へ。

◉静岡地方法務局より――人権無料相談所へ。

12月5日午前10時より午後3時まで富士川町立図書館において人権無料相談所を開設する。相談員は法務局係員と富士川町人権擁護委員。相談内容については秘密を厳守する。

○公務員から不当な取扱いを受けた人
○前借のため自由をうばわれている人
○強制的に解雇されたり、意に反して労働を強いられている人
○八分や差別待遇をされている人
○投票の秘密を侵されたり選挙権の行使を妨げられたりした人
○借家から無理に追出されたり、嫌がらせをされている人
○騒音、ばい煙、汚水、悪臭などにより被害をうけている人
○家庭内のいざこざ、相続借地、借家、金銭貸借、登記、戸籍、供託、その他法律問題について知りたい人

◉消防団より――火災の時期、注意を。

町の本年度火災発生数はボヤを含めて六件を数えている。これから冬の間、火災が特に発生し易い時期。

一にも火の用心、二にも火の用心。

◉清水税務署より――青色申告で納得のいく納税を。

所得税課に青色指導主任制度（大津事務官担当）が設けられ、白色申告者の方々を個別に訪問、青色申告に切替えるようすすめているが、白色申告者の方も数が多いので、なお毎週金曜日を青色申告の相談日に定めて応待している。

青色申告をして特典を活用し、明るい納税をするために、是非一度相談を。

電（清水②四一六一

◉警察より――ニセ札と思われたときは直ちに届出を

○手ざわりが柔かい
○折目が白くなりやすい
○折目が破れやすい
○斜めからみると紙面にロウをぬつたようなツヤ

千円札を手にしたときはまず確認。ニセ札を発見して届出た方にはニセ札を真券と取替えたほか三千円以上の謝礼提供。

地味

※忘年会の時期　私も一つ二つ出席せねばならない※行わなくてはいけないという規則があるかのように、多くの人たちによつて守られている行事※創意のない忘年会の多いのにも驚くし、紅灯の座敷においても低品性ヤバン人というのもいる※文化性の有無をよく表すのが忘年会※会費三百円、富士川の河原でバーベキュー、こんな男女の集りに水準の高いのが目立つ※文化人は日常茶飯事の中から生れる。※このへんで、一つ、自分たちも楽しく、周囲の人たちにも迷惑をかけない忘年会というものを考えたい※一年を反省すべき夜を、また後悔するでは始らぬ。（西）

文化祭、芸能の部は成功
展覧会出品に奮起を

十一月三日、文化の日はあいにくの小雨で、当町の文化祭展覧会会場、町立図書館を訪れる人の影も少く淋しい一日になつたことはまことに残念だつた。

努力を重ねて出品された各作品も人待気に感じられいじらしかつた。

来年もまた再来年もあること、この日出品した方がこれにこりず、なおいつそう精進の上、例年十一月の菊の日に出品せられるよう希望したい。と同時に

※画、書、彫刻、写真などの各分野において、それぞれ才、素質にめぐまれて創作に励んでいる人々の内あんがい参加出品しない方も多いのではなかろうか。

町の文化祭などに出品してもしようがない、審査の目もないではないかという声が聞かれるが、参加作品が多くなれば、水準がより上がれば、自然と各分野における一流の人を招いて批判を仰ぎ、審査をうけるということも可能になるのではないか。

町文化祭は町民体育大会と並ぶ町の二大行事であるにもかかわらず、盛んな体育大会に比べてあまりにも小さい。

かりに作品を出品せず、また芸能大会に出場しなくとも、観客として参加することはできる。

運営委員会も、終了後、反省会を開き、いろいろと今回の行事を検討し、来年の文化祭に対する建設的な考えをまとめたようであるが、「多くの人たちをひきつける楽しい、魅力ある文化祭」を底辺とし、当町文化の向上を頂点とした三角形にもつていくような配慮を欲しいものである。

次に運営委員会に対し、一つだけ忠告したい。

それは本年度の文化祭に個人プレーの色彩が強かつたということだ。結果は非常によかつたことは認めるが、スタープレーはやはり排除せねばならない。

しかし何はともあれ、このたいへんな文化祭を挙行したその苦労に対しては厚く謝意を呈したい。

夜六時より、芸能大会が開かれ、それでも三々伍々と集まつた人たちが、第一公民館内約七割を埋め、このときより、ようやく文化祭の気運が高まりはじめた。

町内青年愛好者の合唱団（ぐみの木）の力強い歌声は場内を圧し、そのひたむきな、前進の気構えは、けがれない声にのつて人々の胸に伝つた。感激は波のようにうち返し－こんなグループが町内にあつたのか」「雨の中をやつてきたかいがあつた」と、あるいは驚き、あるいは涙ぐんで喜んだ。斎太郎節のあの青い海は、この日の感動とともに来場した人たちの心ふかく生きつづけることであろう。

「ぐみの木」は現在会員数約三〇名、毎週火曜日第一中学校音楽室で、夜六時半より九時まで、うまず、たゆまず、合唱の練習を通じて人間性の向上を心がけている。会費は月三十円、難しい入会規則もなく、初心の方も暖かく迎えている。

町内の一粒の文化の種、こんごもいつそうの努力を願いたい。

婦人会の「小池のおろち」も好評をはくし、盛んな拍手を浴びた。演ずる人々と観客の間に、楽しい空気が交流し合い、婦人会の一カ月余の苦労が一度に花を開いた感があつた。

演劇を通じて演技する人は勿論、見る人も知らず知らずの内に豊かな人間味を身につけることになる。

婦人会の今回の試みはこんどの文化祭芸能の部に対し大きな暗示を与えたことになり、ただそれだけにしぼつて考えてみてもその成果は高く評価される。

最後をしめくくつて、芸能の部第一位を獲得した青年団の「次郎かかし」が演ぜられた。

文化祭全体に対して積極的に協力した青年団は、この演劇にも力いつぱいぶつかつて、富士川町青年団健在なりという意気を示した。

最近、就業その他の関係で青年団の活動についてうんぬんされてきているが、その壁を乗り切る方法は、かなり楽に見出されることであろうと思われた。

この日とりあげた主題も適切で、観客の共感を呼び楽しい一刻を提供した。

この他にも多くの詩吟、舞踊、独唱、演奏が織りまぜられて、来場した人々を喜ばせた。

総体的にいつて芸能の部は成功したということがいえる。ただもつと多くの町の人たちが観客としてだけでもこの文化祭に参加したならばという思いだけは残つたが――。

来年の文化祭は名実ともに町の、町民の文化祭として、展覧会に、芸能大会にその躍進をみせることを強く期待したい。

なお、これを機会に、全町内に点々と存在する文化活動グループの奮起を願いまた個人ばらばらに創作活動をしておられる方々のグループ結成を促したい。

私たちのこの富士川町がよりよく、住みよい町になるために、自己の最善を出しきろうではないか。

「ぐみの木」の力強い合唱

婦人会演劇「小池のおろち」

展覧会場風景―町立図書館

◇昭和37年度文化祭受賞者

〔展覧会の部〕

教育委員長賞
書　関健二（四十九）

社会教育委員長賞
写真　双葉滴（上町）

努力賞
手芸・工作品　千頭和武司（相生）森中まさ子（新町）太田糸子（木島）安井明子（原田教室）

※町長賞と婦人会長賞は該当なし

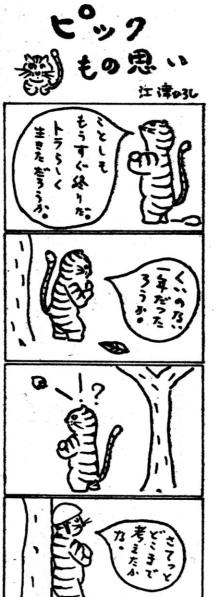
〔芸能の部〕

町長賞
劇 ― 次郎かかし　青年団

教育委員長賞
合唱 ― 斎太郎節他　ぐみの木

社会教育委員長賞
詩吟 ― 大楠公　吟詠会

婦人会長賞
劇 ― 小池のおろち　婦人会


ピックもの思い
江津ひろし
ことしも もうすぐ終りだ。トラらしく 生きた だろうか。
くいのない 一年だった ろうか。
!
?
さてっと どこまで 考えたか な。

蒲原トンネルついに貫通11月8日に

東海道新幹線工事の内でも難所といわれた蒲原トンネルは、八日ついに貫通した。

地質がもろく工事には事故が続出、死者三、重軽傷者百四十六人を出した。

全長四千九百三十四メートル、県下では新丹那トンネルについで二番目、新幹線では四番目、全国で十番目の長さである。

この貫通後、あとは残つた部分の仕上げに移り、来年十一月に完成する。

広報メモ

十一月二日、岩渕の望月生という差出人から投書を受取つた。

近づく地方選挙に関して富士川町自民党支部に対する意見と、婦人会の動きについての感想を述べてあり、この新聞紙上に掲載方を依頼したものである。

筋の通つた考え方であり掲載是非をめぐつて種々検討したが、遂にボツにすることに決定した。係としては、この真剣な質疑を捨てるにしのびず、現自民党富士川町支部長斎藤六郎氏より回答文をいただき、保管するという手段をとつた。

望月氏が何時でも係を訪れることを希望する。

十月号記事訂正

二面に…眼鏡の寄付について、柳瀬時計店とあるのは井口時計店の誤りであつた。

井口時計店に対して、深くお詫びし訂正する。

役場人事

税務課長は一ケ月半、自治大学で税務研修を受けた。

人の流れ

（敬称略）

祝結婚

区名	新郎	新婦	旧姓
小池	小山富美男	恵子	瀬尾
本一	望月照介	春子	高木
東一	中村住守	秀子	坂本
宮町	小沢一雄	千英子	小沢
本一	佐野浩之	愛子	浜村
小山	斎藤啓悟	勝子	河西
幸町	浦田保良	かよ子	石川
堺町	若月伸元	富美子	青木
上町	谷津倉宙志	よし子	遠藤
原方	錦織孝臣	信子	稲葉
大北	宇佐美進	龍江	北川
大北	天野喜義	まち子	加藤
泉水	深沢祇章	幸恵	大石

祝誕生

区名	氏名	保護者	続柄
幸町	望月佐起子	貢	長女
木島	佐藤千恵美	広己	長女
本四	斎藤由果里	博	長女
木島	牧口光也	良晴	長男
四十九	金刺智枝	昂	長女
上町	斎藤芳暢	孝雪	長男
堺町	東重良美	善光	長女
四十九	芦川宏行	武司	長男
旭町	西島法子	武夫	弐女
舟山	丸山等	元一	長男
相生	鈴木和代	衛	長女
本三	七沢進	靖子	長男
宮町	藤井絹子	滋	長女
舟山	太田佳子	圭一	長女
坂下	望月芳弘	安平	弐男
堺町	浦田祥子	直	長女
堺町	川島直明	仁	長男
東二	佐藤元子	弘	長女
堀の内	赤池勝義	勝久	長男
原方	望月幸子	勝	長女
水口	錦織和彦	正味	弐男
足ケ久保	小泉重幸	利治	長男
原方	白井修	昇	長男

転出した人

区名	氏名	転出先
堺町	若月喜久江	富士市
旭町	飯野美恵子	埼玉県
本四	高橋令枝	富士市
新井	小林良子	富士市
道下	小沢玉枝	富士宮市
大北	天野三栄	富士宮市
大北	風岡治代	富士宮市

祈冥福

区名	氏名	年令
堺町	渡辺仙吉	八三
上町	大屋為免	七四
川坂	若月よね	八四
坂下	大田平作	七四
木島	芦川繁年	六二
本一	太田元子	二四
旭町	篠原トウ	六二
本四	若月嘉一郎	六五
宮町	江口勇	五七
三十坂	稲葉松太郎	八二
原方	久保田博士	零

町の昔ばなし

描き染め

狐火

その十一

氏車 博

葉の落ちた柿の木の梢にたよりなさそうに実が一つぶらさがつている。仙蔵は風呂の湯の香を楽しみながら、首まで浸つて暮れゆく初冬の空を眺めていた。部落をすつぽり抱いている裏山の背も黒々とした姿を見せはじめる。

ふと、昨夜の庄吉の話を思いだした。

：　：

庄吉が、足のけがから耕作を二日ほど休んでいた仙蔵を見舞つて、夜やつてきた。おりんの件だと推察した母親の感じの通り

「仙蔵、妹の気持は決つたぞ。兄妹のようにして育つたから、今になつて夫婦になるということをずいぶん恥ずかしがつたが」

と口を開いた。

仙蔵は目前に今まで違つた生活、それもみずみずしく、くすぐつたいような世界が開けてきたのを感じた。

：　：

こざつぱり髪も洗つて後庭に出て、柿の木に寄りかかり、もの思いにふけつた。

遠くで犬が激しく吠えて仙蔵をわれにかえらせた。すぐの弟が家の中で

「直さんちの黒だな、ばかに吠えるな」

と云うのが聞えた。

なにげなく山の背を見たときだつた。一点、二点……六点……と小さな明りが列をつくつて陵線に沿つて上から降りてくるのが見えた。

「やつ、あれか、狐火だ」

そのまゝ仙蔵は誰にも云わず見守り続けた。踊るようにかすかに上下し、次にちよつととまり、また進むという運動を繰り返しながら降りてくる。

「狐のやつ、何か祝いごとをやつているようだ」

仙蔵は、自然と自分の心の状態に結びつけていた。

黒がまた吠えた。

：　：

風もなく、夜気は重くたれこめていた。

庄吉の家の灯りが竹やぶの端から浮かびでた。と、仙蔵の前に人影がふいに現れ

「仙蔵さん」

それはおりんだつた。

二人の周囲は幻のような灰色の景色に描かれ、その核に、お互を求め合う情炎の息吹きが燃えあがつていた。

：　：

翌晩、すでに部落中に、仙蔵が狐にだまされたという噂さが広まつた。

まぼろし

狐火を見たのも何人かあつて、仙蔵がその夜遅く、心配でまんじりともせず起きていた母親の前に、茫然とした様子で帰り立ち、問に答えて「花嫁が行列をつくつて迎えにきたので馬の背に揺られて御殿へ行つてきた」という。母親の口から伝つたのだ。

：　：

二年ほど過ぎたとき、同じ裏山の端伝いに、また狐火が見られた。

妻のおりんが風呂をたきつけていたときだつた。

「お父さん狐火よ」

と知らせた。

「おりん、送つてあげようや、吉坊の守神みたいなものだ。

あのとき、お前の室へ導いてくれたのは狐火だからなあ」

：　：

母親は同じ狐火を見ながら…

「こんどはどこの仙蔵が狐火を利用するやら」

とにこ〳〵笑つた。　終